

遊びがつながる・広がる

作成日：2024/6/12
対象児：かえで組5歳児
作成者：小城亜矢子

ねらい：友達と一緒にイメージを共有し合って遊ぶ楽しさを味わう



振り返り

砂でアイスを作っている子に、アイスの道具を貸してもらえなくて困っていた子がいました。保育者が仲立ちとなり「貸してあげよう」とか「一緒に使える？」と提案すれば解決することがほとんどですが、そうすると最初に遊んでいた子がモヤモヤとしていることも多いです。もちろん遊びの中で友達との思いの衝突や上手くいかない思いを経験することは、自分の思いを整理し伝えられるようになったり、相手の気持ちを想像する力になったりするので、保育をする上で大事なことです。でも、「まあいいか」「こうしてもおもしろいかも」と自分の気持ちに折り合いを付けていく考え方もできるようになると、もっと自分の気持ちの幅が広がるなあと思っていました。そこで、「じゃあ、お部屋でアイスを作ってみる？」と声をかけアイス作りが始まりました。遊びが始まると「アイスはカップとコーンが選べるんで」「いろんな味を作ってアイス屋さんにしよう」とどんどん会話が盛り上がっていききました。「棒アイスには棒がいるやろ？」と家からアイスの棒を持って来てくれたり、「マーブルアイスがおいしかった」「トッピングもあったよ」とアイス屋さんへ行って偵察？をしてきてくれた子もいました。看板を作ったり、メニュー表を描いたりして、アイス屋さんごっこに発展しました。「おもしろい！」「年少さんにも食べてもらいたい」と言う子がいたので、「じゃあかえで組のアイス屋さんをオープンさせよう」ということになっています。「コーンが足りない」「もっと他の味を作ろう」と共通の目的に向かって遊びの準備が広がっているところです。

自分の気持ちに折り合いを付けられるようになるには、「これができなかった。でもこうしたらおもしろかった」というプラスな体験が必要だと思います。どうしても譲れないという強い思いも大切にしつつ、「まあいいか」と気持ちを緩められると世界が広がって見えるかも…と保育を通して伝えられたらいいなと思っています。(言葉による伝え合い、協同性、自立心、豊かな感性と表現)